

(別記様式)

令和7年度 府立丹波支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階 実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 学校経営計画に基づく計画的・組織的・効率的経営の推進 2 地域・保護者の期待に応え、信頼される学校づくり 3 学校の安心・安全の推進 4 教育課程の整理と学習指導要領を踏まえた授業の充実 5 希望進路の実現に向けての職業教育・進路指導の充実 6 教職員の専門性の向上 7 他の教育機関、福祉、医療・労働機関等との連携の推進	【組織・運営】 ○学校の様子の情報発信に取り組み成果をあげた。 ○業務改善が進み教育の充実に時間を割くことができた。 ▲組織的・効率的運営をさらに具体化すること 【教育課程・学習指導】 ○学習の積み上げや系統性を進めるため教育課程の見直しに取り組んだ。 ○防災教育計画を形にした。 ▲「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した生活や授業づくりを学校全体で進めること。 ▲学習指導要領の主旨を踏まえた教育カリキュラムの整理と充実をはかること 【地域連携】 ▲地域に開かれた教育課程に実現によりインクルーシブ教育の構築を図ること	(1) 自ら判断し伝えることのできる児童生徒、課題や新しいことに向かってチャレンジする児童生徒の育成 (2) 挨拶や言葉を交わし、人も自分も大切にする学校風土づくりと学びやすい働きやすい環境づくり (3) 学習指導要領を踏まえた授業の実施のための教育課程や教育システム構築の推進 (4) 図書室の整備及び読書活動の活発化への取組開始 (5) 50周年行事の準備委員会の立ち上げと取組内容の検討 (6) 防災・減災教育の充実と危機に強い学校づくり

	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校経営	自ら判断し伝えることのできる児童生徒、課題や新しいことに向かってチャレンジする児童生徒の育成	生活や学習において考え判断し伝える場面を意図的に設定する。児童生徒のチャレンジする気持ちを大切にしていち支援し、失敗から学ぶたくましさを育成する。		
		コミュニケーションを大切にしながら、人も自分も大切にする学校風土づくり	挨拶にプラス1(一言)のコミュニケーションを推進し温かく支え合う人間関係構築の一步とする。		
		主体的に学びやすい働きやすい環境づくり	業務改善委員会、教育課程検討会議を中心にして、業務分担の見直しやICT機器の活用や学校組織編成や学習カリキュラムの検討をすすめる。		
		周年事業の準備	準備委員会を立ち上げて計画を進める。		
		防災・減災等危機に強い学校づくり	防災教育計画の活用と教職員研修を実施する。		
	専門性の向上	授業研究を通して授業改善を行うとともに教育実践の系統性について考え、年間指導計画や教育課程編制に生かす(研)	児童生徒の思考・判断・表現の場面に着目した授業づくりを行う。研究協議の取りまとめをするスーパーバイザーを配置する。		
		自立活動の観点で児童生徒を多角的に捉え、よりよい指導・支援の方法を検討し提案する。(自)	連携カードや相談活動を中心に、担任からのニーズを吸い上げ担任と一緒にアセスメントを行い指導支援方法を検討提案をする。		
		自立活動について理解が深められるよう具体的なツールを活用し学習する機会を設ける(自)	自活と担任間における連携のため流れ図をツールとして生かす。		
	情報発信	地域への学校の情報発信(教)	地域連携担当と連携しながら、授業実践と地域とのリンクを図りつつ情報発信をする。		

教育課程・学習指導	学習指導	社会に開かれた教育課程の実現(教・学)	地域に根差した教材や地域資源(人・もの)を活用した授業実践の推進を行う。			
		組織的・計画的な教育活動の推進(教)	情報担当と連携しながら学校が所有するICT機器の管理と安定的な情報システムの運用を図る。			
	生徒指導	安心安全な学校生活や通学のための安全教育、命を大切にする意識の向上(生)	交通安全教育の実施、教員による通学指導、問題事象に対する迅速な対応と指導を行う。			
		自発的自治的な活動を通して個性や障害を理解し合いお互いを認め合う豊かな集団作り(生)	児童生徒会活動の年間計画に基づいて生徒が主体性を高められるような授業内容を充実させる。			
	健康安全	感染症予防や衛生についての意識の向上	保健室と連携し感染症予防についての取り組み方を分かりやすく発信する。清掃や整理整頓についてこまめに発信する。			
		日常的に起こりうる事故に対して教職員全員が対応できる能力の育成	児童生徒の事故に伴う対応マニュアルの周知を図るとともに緊急訓練を実施する。			
	進路指導	全校生徒の実態把握を行い早期に課題と向き合い見通しを持った進路指導を行う。	児童生徒の希望進路に合わせた研修に取り組む			
		卒業生のアフターケアを実施する。	卒業生の状況を把握する。同窓会の運営方法を検討する。			
	各 部	授業改善、授業力の向上、系統的な教育課程の編成及び検証(小)	地域とのつながりを意識し、地域で豊かに生きていく児童を育成する教育実践を進める。「日常生活の指導の指針」に沿った指導を進める。			
		中学部期の特徴を踏まえた教育課程の構築(中)	授業研、ケース研を通して、中学部期において「自ら考え行動する力」「相手とのコミュニケーションを通じて人間関係を結ぶ力」「豊かに生きる力」を身に付けるために必要な指導のあり方を検討する。			
		高等部教育を「青年期教育」と位置付け、豊かな社会生活を営むための教育課程の整理・構築(高)	全校の研究テーマとも関連させながら実践研究を行い、卒業生の姿からも学びながら青年期教育を深めていく。			
		個々に応じた入舎のあり方についての検討(舎)	寄宿舎の入舎システムについて全校的な周知を図る。			
地域連携	地域支援	教育相談活動の一層の充実(地)	様々なニーズに対応した支援活動ができるように力量を高める。			
		地域の支援力の向上(地)	各校のニーズに応じた具体的な支援方法や障害についての研修会を実施する。			
	修学支援	修学や生活の課題に対する改善や解決(修)	学校や家庭での児童生徒の状況を把握し、校内関係機関と連携しながら課題解決を進める。			

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方 向 性	
-------------------------	--

()の略語(運)運営会議(事)事務部(研)研究部(広)広報部(教)教務部(学)学部(生)生徒指導部(保)保健給食部(進)進路指導部(小)小学部
(中)中学部(高)高等部(自)自立活動部(舎)寄宿舍部(地)地域支援センター(修)修学支援部